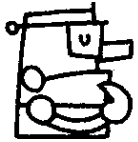




小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /  
人とかんきょう / 理解シート

## サンゴしょうは、なぜへっているの

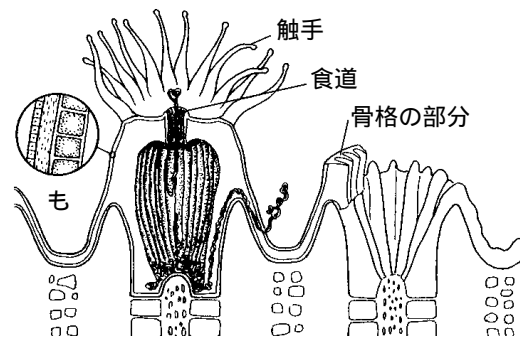


サンゴしょうをつくるサンゴは生物だから、水温の変化や、最近の海水のよごれなどで、成長できなくなるからさ。

サンゴしょうは、サンゴがつくりあげたもの

石のように見えるサンゴは、じつは、がっちりした骨組ほねぐみのアパートに、たくさんのサンゴ虫がいっしょにくらしている生き物です。水中では、あちこちから花びらのような触手が出て、水中のえ物を取りこんでいる、イソギンチャクと同じなかまです。サンゴが成長していくにつれて、骨の部分が積み重なって岩のようになったものが、サンゴしょうです。

この骨の部分をつくる材料として、サンゴは二酸化炭素きゅうしゅうを吸収きゅうしゅうしています。



サンゴの体

サンゴは、かんきょうの変化に弱い

たいていのサンゴは、水温が20～30 ぐらいで、日光が底までさしこむ、すんだきれいな海の、深さ20mぐらいの浅いところで、よく成長します。

サンゴの体の表面には、も(かっ虫そう)がついてることが多く、このもが日光の助けで二酸化炭素を吸収して栄養と酸素をつくります。サンゴはもから、栄養と酸素を分けてもらい、たすけあって生きています。工事などで、どろが流れこんだり、タンカーの石油がもれたりすると、もは死に、サンゴも弱ってしまいます。

気温の高い日が続いた年は、海水温度が高くなりすぎて、サンゴが弱ったり死んだりしました。海水面が上がって深さが変化すると、サンゴは死ぬことがあります。

このように、さまざまな理由で、サンゴしょうはへっています。